



市内公立小学校における食育出前講座 美座小学校（2年生）へ行ってきました。

【日 時】 令和6年（2024年）9月6日（金）
13時45分～14時30分
【場 所】 多目的室
【内 容】 食品ロスについて学ぼう



講師は、NPO法人C・キッズ・ネットワークの大森節子さん。（右写真）
楽しいクイズ形式で、食品ロスについて学んでもらいました。

まず、「あなたはだあれ？」クイズ。

「お好み焼き」「親子丼」「ハンバーグ」など、おいしそうなお料理が画面に現れます。

子どもたちには、一人ひとりに配られた「魚・牛肉・豚肉・鶏肉・卵」の5枚のカードから、その料理に入っていると思う食品のカードを挙げてもらいます。

「お好み焼きはだ～れだ？」・・・豚と卵のカードを挙げる人、
かつお節も入っているよ～と魚のカードも挙げる人も・・・

楽しそうにそれぞれカードを挙げていました。

『魚にも肉にも卵にも、みんな命があるよね。私たちはその命を
いただいているのだから、残したりすると、いただいた命に
申し訳ないよね。それにもったいないよね』



生きるために、たくさんの命をいただいていることについて、学んでもらいました。

次に、「なぜ捨てられたの？」クイズ。

○1房のバナナの中に、1本だけ真っ黒のバナナが混じっている写真

⇒ 黒いバナナが入っていると売れないので、捨てられています。

○ひなあられの写真

⇒ ひな祭りの時期が過ぎてしまって、売れ残ってしまったから捨てられています。

黒いバナナ1本だけ外して安く売るといいのにね。

季節もので時期が過ぎても、みんなが買ってくれるといいのにね。

お店側は、消費者が新しい食品の方が安心だと思うだろうなあ、見た目が悪い食品は嫌だ
と思うだろう・・・と思って、捨ててしまっています。他にも、品切れになると困るだろう
なあと思ってたくさん準備をしています。消費者の気持ちになって考えています。

『でも、賞味期限ぎりぎりでもかまわないや・・・シーズンが過ぎても構わないや・・・

みんな（消費者）の意識が変われば、お店も変わります。

解決することもありそうですね。』

食品ロスが出る理由や、その解決方法について、わかりやすく説明をしました。

日本から海外へ届けている食糧が約 480 万トン（一昨年）、日本の食品ロスは 1 年間で約 472 万トン。同じぐらいの食料が捨てられています。この分を支援に回せば、もっとたくさんの食料を外国に届けることができます。

ごみ进行处理するためにもお金がかかります。

どんなことができるのか、世界中のことも考えてもらいました。

その他、賞味期限と消費期限の違い、フードバンクやフードドライブについてなど、様々なことを学んでももらいました。

***** 最後にみんなで振り返り *****

今日のお話を聞いて気づいたことや思ったことを自由に発表してもらいました。

- 食べ物の大切さがわかった。
- 日頃料理を残すことが多いので、残さないように食べたいと思う。
- 料理を残してしまうと命をいただいた動物がかわいそうなので残さないようにしたい。
- 食品ロスを減らすために、いろんな人で動いていることがわかった。
- 世界には、ごはんを食べれない人がいる。食べ物を無駄にしないようにしたい。
- フードバンク・フードドライブがあることを知った。
- 食べられないものはフードバンクへ持って行き、みんなが死なないように届けられるといいなと思った。 など

小学校 2 年生だと思えないようなしっかりとした感想をたくさんもらいました。

真剣に講師の話聞き、一生懸命に考え、質問にも元気いっぱい手を挙げて答えてくれました。美座小学校の 2 年生のみなさん、ありがとうございました。

